

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600933		
法人名	社会福祉法人ふれんど		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	苫小牧市明德町4丁目4番17号		
自己評価作成日	平成27年7月15日	評価結果市町村受理日	平成27年8月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0173600933-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームのどかでは、入居されている方の尊厳を守り、その人らしい生活を尊重することを基本としています。そのためにスタッフ研修により、能力を向上させ業務に反映できるようにしています。入居している方の暮らしが生き活きとしたものになるよう、音楽療法士によるサークルに加え、朝の体操から一日をスタートし、個々にあった暮らし方を援助しています。なるべく活動的に過ごせるよう、カルタや手作りボーリング、手作り釣り、塗り絵などを行えるよう準備したり、嚥下機能向上のために、「パタカラ」や早口言葉、歌を唄うようにしています。また、地域交流ができるよう、ケアハウスや外へ散歩する機会を作っています。ボランティアの受け入れを今までよりも増やし、利用者の生活が楽しいものとなるよう考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の社会福祉法人が運営する高齢者福祉施設が集まる地区の一角にある平屋建て2ユニットのグループホームである。中庭を中心に各ユニットが配置されキッチンの両側に居間と食堂スペースがそれぞれあり、食堂スペースの天井は吹き抜けとなっている。和室コーナーも別にあり、居間には十分な数のソファが用意され、利用者は好きな場所でゆったりと過ごすことができる。敷地内の庭も整備され、各居室から木々や花を楽しむことができる。共用空間には行事での写真や手作りの装飾が飾られている。働きやすい環境のため職員が長く定着しており、利用者や家族の安心につながっている。また、ユニット間で職員を一定期間交代し、相互の理解や協力をし易くしている。地域交流の面では、開設後10年近いこともあり、近くの小学校や町内会、関連施設との交流が活発で、地域に溶け込んでいる。また、ケアマネジメントの面では、毎月のモニタリングや、定期的な介護計画の作成、アセスメントシートの更新が職員全員のもと計画的に行われている。受診支援など医療面の支援も行き届いており、看取りについても経験を積んで利用者のニーズに対応できるよう進めている。入浴の面では、大きな浴槽に温泉のお湯を用意し、場合によっては仲の良い方が2名一緒に入浴するなど、楽しめるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(のどか1アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフ全員で作り上げた物で、年に4回理念について実施できているか検討している。また、毎朝復唱し実践に繋げられるよう努力している。	職員が話し合っで作った4項目からなる理念の中で「地域の人々とのふれあいを大切にします」という文言を掲げ、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念としている。理念を申し送り時に復唱し、共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のふれあいサロンに参加したり、ボランティアの方々に来ていただいている。	隣接する同一法人の関連施設内で町内会の行事が行われ、利用者が参加している。グループホームのお祭りに隣接施設の利用者を招いている。歌や楽器のボランティアや小学生も事業所を訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトがあり、近所の小学校へ出向き劇を交えた講和を行っている。また認知症カフェへ相談等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で日々の生活の様子、状況等について話し、自己評価、外部評価についても報告しサービス向上に生かせるように努力している。	会議は2か月毎に開催され、市役所や地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、複数の家族の参加を得ているが、会議は活動報告が中心となっている。議事録は家族に送付していない。	活動報告の他に、年間を通して、外部評価や防災、介護保険制度などのテーマを設定して話し合いを行うことを期待したい。また、議事録を全家族に送付することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員が毎回運営推進会議に参加され、事業所の様子を伝え、関係を築くようにしている。	運営推進会議に市役所や地域包括支援センターの参加があり、情報提供を受けている。また、職員がキャラバンメイトとして小学生に講話を行っている。市内のグループホーム連絡会で市の担当者と情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は開錠されている。身体拘束禁止の行為は、スタッフ全員に周知され、講習会で研修を受けている。	禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルを用意し、法人内研修や勉強会で理解を深めている。玄関は日中は施錠しておらず、外出があればセンサーで分かるため、職員が同行するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関するファイルを各部署に置き、スタッフ全員が周知し研修会に参加したり、施設内研修もを行っている。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか1)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	精神科を標榜する医療法人の系列法人であり、成年後見制度に精通した職員がおり、研修を実施している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明、話し合いの場を設け、納得していただけるように努めている。医療機関とも連携を取っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情ボックスを設けている。面会時、行事の時など話し合いを行っている。	運営推進会議の際や家族の来訪時に意見を聞き、得られた意見を「相談記録」や「連絡ノート」に記載し、共有している。クリスマスなどの行事で家族アンケートも行っている。ホーム便りの頻度を増やすことも検討している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや毎週の会議の中で聞く機会を設けている。	合同ミーティングとユニット毎の会議を毎月開催して活発に意見交換しており、職員の意見をもとに、脱衣所の整理整頓やソファ配置の変更などの改善を行っている。管理者と職員が年に2~3回程度面談する機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス研修、年1回の自己評価、人事考課制度を設け、各自が向上心を持って働けるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修の促し。経験に合わせた研修に参加出来る様、手配している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会、協議会に出席し、他施設の方たちと話し合い、サービス向上に生かせるよう努めている。			

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時、ご家族、医療機関と面談を行い情報を頂いている。入居時は本人と面談を行い、状況を把握するよう心がけている。入居時は詳細に記録、アセスメントしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談でご家族が求めている事、希望されている事を確認し説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状態を見極め、本人に合った支援を考えるよう努めている。他部門への相談も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の大先輩であるので、畑の作り方や調理方法について教えてもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で最近の様子を伝え、お互いに相談しながら協力している。のどか便りでホームの生活の様子をお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、なじみの人がしばらく来られない時は、本人が電話をかけたり、行事のお誘いをして着て頂ける様にしている。	隣接するケアハウスからの利用者が多くおり、普段から行き来してもとの馴染みの方と交流している。親戚からの手紙の返事の作成を手伝うこともある。通院帰りに利用者の希望に沿って、薬局や時計店などに同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のお互いの関係を知り、仲が良いもの同士近くで過ごせるようにしている。そうでない場合もお互い意識しなくて良いように、居場所の工夫をしている。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでサービスを終了された方は、入院し死亡されたケース。ご家族には何かあればいつでも連絡されるようお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意思は日常の会話や関わりの中で感じ取り、スタッフ間で検討し、全員が把握している。	半分以上の方が思いや意向を言葉で表出でき、難しい方の場合も表情やしぐさなどをもとに把握している。センター方式のアセスメントシートを6か月毎に更新し、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントシートからの情報を活用。入居後の生活の中で本人との会話の中で情報を集め、ミーティング時や連絡ノートでスタッフが周知出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、個人記録連絡ノートなどから把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者に日々の生活に関わってもらい、モニタリングを行いミーティング時に話し合い、その時にあった介護を行えるよう努めている。家族には日々の生活を伝えている。	毎月のモニタリングと3か月毎のサービス担当者会議を経て、6か月毎に介護計画を更新しており、変化があれば都度の見直しも行っている。日々の記録は介護目標に沿った記録を意識しているが、十分といえない。	日々の記録について、介護計画の目標に沿って利用者の様子や変化を記録できるよう、職員全体の取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、連絡ノートを使い日常の様子、変化行動について情報交換し、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の記録を行い、連絡ノートを使用している。業務の中で気づいたことを伝達し、柔軟な介護をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園の散歩、畑を作り、花、野菜づくりを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重している。協力医療機関が系列法人のため、密接な連携を取っている。他医療機関とも情報交換を密に取っている。	関連法人の医療機関による週1回の往診があり、その他のかかりつけ医への通院も家族が難しい場合は事業所で送迎している。個人ごとの受診記録を作成している。	

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員には気づいたらすぐに連絡し、状態、受診についての相談を行っている。適切な支援ができるよう心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は電話、面談などで連絡を取り、情報交換をするよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化やターミナルのあり方について説明し、ホームで出来る事と出来ない事を話し、同意をもらっている。	利用開始時に「重度化および看取りに関する指針」を説明して同意の署名捺印を得ている。訪問看護の支援のもと過去に1名の看取りを経験しており、今後も条件が整えば看取りを行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング、施設内研修などで定期的に訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回災害訓練を行い、入居者にも協力してもらっている。	関連施設と合同で年2回の昼夜を想定した避難訓練を実施している。また、災害時に必要な備蓄品も用意している。一方、職員の定期的な救急救命訓練の受講は十分といえない。	全職員が定期的に救急救命訓練が受講できるよう、取り組みを期待したい。また、地震等、火災以外の災害を含めた災害マニュアルを用意し、会議等で定期的に確認することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから言葉使い、対応にはお互い気づいたときに注意をし、ミーティング時にも話し合っている。	気になる言葉かけがあれば、その都度注意を促している。ミーティングで、年2回程認知症の方への対応や言葉遣い、接遇について学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思、希望が意思決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、一人ひとりのペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助が必要な方はスタッフが関わり、一緒に選んでいる。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備を利用者と話をしながら行い。盛り付け、配膳、下膳をスタッフと一緒にやっている。	職員が交代で献立を作成し、年1回は法人の管理栄養士の指導を受けている。誕生日は本人の好きな献立にしたり、行事で出張握り寿司などを楽しんでいる。楽しく会話をしながら、職員も同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせ、食事、水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、汚れ、匂いを確認している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録に排泄を記入し、一人ひとりのパターンが把握でき、時間を見ながらトイレの声かけ、誘導を行っている。	排泄は、利用者の6割程が自立している。昼夜共にトイレでの排泄を支援し、状況に応じて夜間のみおむつやポータブルトイレを使用することもある。夜間もトイレで排泄ができるように改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操、散歩を心がけ、水分摂取の声かけをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、入浴出来る様にしている。	天然温泉のお風呂で、午後の時間帯を中心に各利用者が週2回入浴できるように支援している。希望に応じて午前中に入浴したり、身体状況に応じて隣接しているケアハウスで機械浴を行っている。職員と会話をしたり、気の合う利用者同士で入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でテレビを観て過ごしたり、昼寝をする方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用について周知している。服用後の変化の確認、変化があった場合は看護師へ連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事が好きな人、編み物、縫い物が好きな人、運動が好きな人、一人ひとりに合わせ支援を行っている。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関は開錠し自由に外に散歩したり、家族と外出する機会もある。	近くの公園に散歩に出かけたり、中庭で外気浴や食事を楽しんでいる。畑仕事をしている利用者もいる。外出行事で幼稚園の運動会に出かけたり、回転寿司などの外食に出かけている。通院の帰りに、買い物などをすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名お金を所持している。外出時に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物(ちぎり絵、写真)花などを工夫し利用者と一緒に作り、飾っている。また温度計を各部屋、リビングに置き、調節を行っている。	建物の中心に2ユニット共有の事務所があり、行き来ができるようになっている。各ユニットは、キッチンを中心に居間と食堂が独立している広々とした造りで、利用者に合わせてソファの配置を工夫している。行事の写真や利用者と一緒に制作した季節感のある装飾の他、夏祭りに出品する作品なども飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自テレビのある方は居室で過ごされたり、ない方はリビングで自由に過ごされ、居場所の工夫も行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が馴染みの物を持ってきていただいたり、ご家族の写真を貼っている方もいる。ホームで仲の良い方と写真を撮り、アルバムを作ったり、花を置いたりしている。	各居室には、洗面台とクローゼットが備え付けられている。ベンチタイプの出窓に花や縫いぐるみ、好きな小物類を飾っている。使い慣れたタンスなどを持ち込んだり、家族の写真などを飾り居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースの他、トイレ、居室に手すりがあり、広く介助しやすくなっている。必要、不必要な物については、その都度対応している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600933		
法人名	社会福祉法人 ふれんど		
事業所名	グループホーム のどか		
所在地	苫小牧市明德町4丁目4番17号		
自己評価作成日	平成27年7月15日	評価結果市町村受理日	平成27年8月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「のどか1ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0173600933-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年7月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(のどか2アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフルームとユニット内に掲示し、意識して業務が行えるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員や町内会会長に防災訓練に参加してもらったり、近所の方が犬を連れて遊びに来ていただいている。またケアハウスの散歩をすると以前顔馴染みのケアハウスやデイの人と交流ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	8月にキャラバンメイトが近所の小学生向けに、認知症講和を劇を交えて行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で利用者の状況や生活の様子について話し、評価や意見はサービス向上になるよう努め、市役所や町内会からの情報を生かす事ができるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のグループホーム連絡会に参加し、運営推進会議には市の介護福祉課が参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月第3月曜日に身体拘束会議を行っており、またミーティング時には身体拘束事例を挙げて、自分達の対応を振り返り、復習の機会を作っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の関するファイルがスタッフルームにありいつでも閲覧できるようになっている。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	キャリアパス研修で学ぶ機会が毎年ある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居する前に事前にご家族とご本人と話す機会を作っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスを玄関に設置。面会時にご家族から意見があった時は、サービス向上委員会や運営推進会議で話し合うようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや業務の合間に聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス研修や年に一回の自己評価、人事考課を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修と、外部の研修があればスタッフに声かけ各々に合った研修が受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会、協議会に参加し、他ホームの現状を知り交流を図るようにしている。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか2)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族、本人と面談し、直接話を聞き、以前にサービスを使っている方は、担当ケアマネから情報をもらうようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネから事前に情報をもらい、ご家族、本人からも聞き取りを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の必要とする支援として福祉用具が必要であれば書類の整備や手配を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の民謡や言葉、調理方法などを教えてもらう機会がある。親しみを持って話しかけ、感謝している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話で近況報告をしている。日々の様子を個別でのどか便りでお知らせしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の継続を行う事で担当医との馴染みの関係を保持できていたり、かつての自宅へ連れて行ったり、電話で声が聞けたり、行事に誘って一緒に過ごせるようにしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う者同士過ごせるような席の配置の工夫をしている。気が合わない人同士、なるべく視界に入らないようにしている。			

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退居された方は、長期入院や入院先で死亡されている。ご家族にはいつでも相談に応じることが伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や何気ない表情から意向を知るように努めてる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方を知り、なるべく継続できる様にしている。ケアハウスやデイの馴染みの人に会える様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化や、残存能力の発見があれば業務の間やミーティングに話し合ったり、連絡ノートへ記入し全スタッフが把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族から聞き取りした内容をスタッフへフィードバックし、現状と照らし合わせながら、モニタリングし次のプランに繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや申し送りで情報を共有し、ミーティングでの意見を反映させ毎月見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の多機能なサービスがあるので、重度化した時に、特養を検討することがある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園、隣の施設、ヘアハウスへ散歩に行ったり、喫茶店や、買い物へ行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週水曜日に往診があり、適切な医療が受けられるようにしている。かかりつけ医をそのまま継続できるように連絡、調整を行い受診介護を行っている。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護師がいるので何かあればすぐに連絡、相談している。夜間は宿直看護師がおり、何かあればみてもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、電話で様子を聞き退院の見込みを聞いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化やターミナルのあり方について説明。ご本人と家族の意思を尊重しなるべくホームで過ごせるようにし、ターミナル期に入る段階で、再度説明をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥、窒息、応急手当の方法について掲示している。また施設内やミーティングでも研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を夜間設定に行ったり、町内会に誘導手伝いを依頼している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声かけに配慮し、個別に対応している。言葉使いはお互いスタッフが注意するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲食の種類を選択してもらったり、衣服の選択などをしてもらっている。自己決定が困難な方は、表情や仕草でみるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外の空気を吸いに、好きなときに自由に出てもらっている。散歩や音楽の声かけはするが行きたくない人は、テレビを観たり各々過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をする人は、化粧道具が足りなくないかを見たり、一緒に買い物に出掛け、服選びができるようにしている。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか2)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	偏食がある方に代替の物を用意し提供している。またご家族からおかずを預かり、食事の時間にお出ししている。また献立を作成する時、人気のないメニューは外すようにしている。一日の水分量を計算し把握している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量が多く残したい人は、最初から少なめに盛り付けをしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時に歯磨き、うがいの声かけ、見守りをし磨き残しのある人は介助し、口臭の有無をみている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、トイレの声かけ誘導を行っている。ミーティング時、失禁が無い人は、紙パンツから布パンツへ変えた方もいる。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い、乳製品の摂取、水分量のチェック、個々に合った下剤の調整を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	食事がゆっくりな人は2番に入浴ができるようにしたり、ADLに応じて機械浴に移行している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中体がこわいと言う方には、ベッドで休めるよう誘導している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬が変わった時は特に変化が無いかを観察している。効能、副作用については薬情で周知している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物のたたみや、野菜の下処理、作品作り、外への散歩、中庭で花見などをして過ごされている。			

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に行きたい時はいつでも散歩に出掛けられ、定期受診の帰りに買い物へ寄って、好きな物を買って帰ってくる事がある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持をしている方は2名おられ、歯科受診代やおやつ、日用品を購入しておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	会話の中に頻繁に家族の名前が出てきたり、本人から要望があればいつでも電話をかけ、家族と話せるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハード面は家庭に近い環境、雰囲気になるようにし、レースのカーテンで明るさを調整、中庭が眺められるような配置、季節が感じられるような作品を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビが聞こえない方は居室でイヤホンをつけてテレビが聞こえて楽しめるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の必要な物リストに「使い慣れた物」「なじみの物」と記入している。使い慣れた茶碗や、湯のみ、写真立て、アルバムを持ってきている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所に手すりが設置しており、動線上に障害物がないようにしている。なるべく自由に自立した生活が送れるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム のどか

作成日：平成 27年 8月 10日

市町村受理日：平成 27年 8月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議は2ヶ月毎に開催され、市町村や地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、複数の家族の参加を得ているが、会議は活動報告が中心となっている。議事録は家族に送付されていない。	活動報告の他に、外部評価や防災などバリエーションを持ちいろいろなテーマを設定し、話し合いを行う。また、議事録を全世帯に送付する。	運営推進会議には、いつも決まった議題ではなく、その時によってテーマを変え、参加者の興味の引くものにするよう工夫する。また、議事録を全世帯に送付し、ホームの運営について関心を高められるようにしていきたい。	1年間
2	26	毎月のモニタリングと3ヶ月毎のサービス担当者会議を経て、6ヶ月毎に介護計画を更新しており、変化があれば都度見直しを行っている。日々の記録は介護目標に沿った記録を意識しているが、十分とはいえない。	日々の記録を、全職員が介護計画の目標を意識し、利用者の様子や変化を記録できるよう、取り組む。	ミーティングで介護計画に沿った記録の仕方とその意義について職員に通達し、目標を実施した後の評価(様子)について、日々の生活記録シートに記入できるようにする。	1年間
3	35	関連施設と合同で年2回の昼夜を想定した避難訓練を実施している。また、災害時に必要な備蓄品も用意している。一方、職員の定期的な救急救命訓練の受講は十分とは言えない。	全職員が定期的に救急救命訓練が受講出来るよう、取り組む。また、災害マニュアルを用意し、会議等で定期的に確認する。	消防主催の救急救命講習に職員が、数名ずつ参加し、全スタッフが受講できるように、日程を調整し予定を立てる。防災マニュアルについては、本部から取り寄せ、ホームのスタッフルームでも保管をし、いつでも閲覧できるようにし、ミーティングで防災についての研修を行う。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。